

事業計画書サンプル～ネットショップ編 02

事業計画書サンプルは起業して成功している先輩経営者へのインタビュー取材や開業レポート2012のアンケート調査をもとに作成しています。これから起業・独立する方は是非ご参考ください。

1. 開業資金と開業費用

開業資金と開業費用ですが、近年は無料でネットショップが持てるサービスも登場しています。よって、立ち上げ時はそうしたサービスを利用しシステム投資せずにスタートが可能です。開業費用として大きなものは、事務所兼倉庫となる不動産関連費用でしょう。と言っても、小売店舗ではないので、マンションの一室や一軒家で十分でしょう。この計画では郊外に家賃10万円程度の披露目に部屋を借りた想定にしています。目標年商から1か月間に仕入・発送する商品点数も計算できますので、商品を一時保管しておく棚が置けるスペースが取れば十分です。

今回の事業計画書サンプルでは、開業資金として400万円(内、自己資金200万、借入200万円)。開業費用は商品保管棚などで10万円、パソコンなどのOA機器で20万円、初期の商品仕入費で30万円、会社設立費用20万円、その他経費を合計して135万円としましたので、残り265万円が運転資金となります。

開業費用を抑えれば、開業後の運転資金に大きな余裕を出来ますので、安心して事業に取り組めるでしょう。

開業資金	400万円
内訳	200万円(自己資金)
	200万円(借入)
	万円(その他)

開業費用	135万円
店舗賃貸契約費	10万円
店舗保証金	20万円
店舗前家賃	10万円
事務所・店舗費用(工事費など)	万円
厨房機器・空調機器など	5万円
店舗用品など	10万円
オフィス用品など	5万円
OA関連機器など	20万円
文具・事務用品など	5万円
その他(初期仕入れ費用)	30万円
会社設立費用・開業諸経費	20万円

2. 売上、経費、利益

	初年度	2年目	3年目	
売上(年間)	1,200万円/年	2,400万円/年	5,000万円/年	
経費 (1カ月単位)	原価	360万円/年 (30万円/月)	720万円/年 (60万円/月)	1,500万円/年 (125万円/月)
	人件費	120万円/年 (10万円/月)	240万円/年 (20万円/月)	960万円/年 (80万円/月)
	役員報酬	240万円/年 (20万円/月)	480万円/年 (40万円/月)	720万円/年 (60万円/月)
	家賃等	120万円/年 (10万円/月)	120万円/年 (10万円/月)	240万円/年 (20万円/月)
	水道・光熱費	24万円/年 (2万円/月)	48万円/年 (4万円/月)	96万円/年 (8万円/月)
	広告宣伝・販促費	120万円/年 (10万円/月)	240万円/年 (20万円/月)	480万円/年 (40万円/月)
	その他営業諸経費	60万円/年 (5万円/月)	120万円/年 (10万円/月)	120万円/年 (10万円/月)
	借入金の返済	48万円/年 (4万円/月)	48万円/年 (4万円/月)	48万円/年 (4万円/月)
利益	108万円/年	384万円/年	836万円/年	

次は売上、経費、利益を解説します。売上は1年目で1200万円、2年目で2400万、3年目で5000万円としました。商品の原価率は30%としています。

1年目の経費と利益ですが、事務所兼倉庫として借りた物件が月10万円/年120万円、人件費も最初はアルバイトを雇う程度と考えて、月10万円/年120万円に抑えます。役員報酬も最初は生活費程度として月20万/年240万円。広告宣伝費を月10万円/年120万円としました。これはネットショップの宣伝費、SEOやリスティング広告費などに相当します。こうして切りつめていくと、残る利益は1年間で108万円となりますが、これはあくまで計画値です。実際は売上が起動に乗るまで広告費を増額したり、扱う商品を変えたりと、様々な支出が考えられます。そうしたPDCAを回すためにも、出来るだけ固定費は抑えたいところです。

2年目で売上が2400万と軌道にのり、3年目の年商5000万円までいくと、人件費として年960万円ほどが計上でき、何人か社員を抱えられるようになるでしょう。役員報酬も720万円としています。売上が1年目から4倍増となれば、事務所兼倉庫も手狭になるでしょうから、家賃20万円程度のところに移転しています。こうして計画を見ていくと、3年目で年836万円という利益が残ります。この時点で安全率は4.59とかなり余裕のある経営体質になっています。